

Pastor J.D. Farag 2019 9.29

主はあなたの働きを見て下さっている / クリスマン スーパースターという問題

(新約聖書：コロサイ人への手紙 4章7～18節)

<https://www.youtube.com/watch?v=iLmDTBv3xbE>

それでは、コロサイ人への手紙4章をお開きください。 7節から最後の18節までです。 可能でしたらお立ちになって、私が読むのを目で追ってください。 座ったままでも大丈夫です。 使徒パウロは、この手紙を最高に興味深い方法で締めくくっています。 言っておきますが、多分、これらの名前を正しく発音しようとして、違う名前を言うてしまうはずですよ。 「正しく」も正しく発音できませんでした。 それらの名前が色々な風に発音されるのを聞いてきました。 頑張って発音しますので、どうかお手柔らかにお願いします。 コロサイ人への手紙7節。 「テキコ」 なんか病名みたいですね。

#### コロサイ4

7 私の様子については、主にあって愛する兄弟、忠実な奉仕者、同労のしもべであるテキコが、あなたがたの一部始終を知らせるでしょう。

8 私がテキコをあなたがたのもとに送るのは、あなたがたが私たちの様子を知り、彼によって心に励ましを受けるためにほかなりません。

9 また彼は、あなたがたの仲間のひとりで、忠実な愛する兄弟オネシモといっしょに行きます。

言い換えるなら、地元っ子、コロサイっ子です。

9 このふたりが、こちらの様子を みな知らせてくれるでしょう。

10 私といっしょに囚人となっているアリストルコが、あなたがたによろしくとっています。

バルナバのいとこであるマルコも同じです。 この人については、もし彼があなたがたのところに行ったなら、歓迎するようにという指示をあなたがたは受けています。

11 ユストと呼ばれるイエスもよろしくとっています。 割礼を受けた人では、この人たちだけが、神の国のために働く私の同労者です。 また、彼らは私を激励する者となっています。

これを書いているのは使徒パウロですよ。

#### コロサイ人4

12 あなたがたの仲間のひとり、キリスト・イエスのしもべエパfrasが、あなたがたによろしくとっています。 彼はいつも、あなたがたが完全な人となり、また神のすべてのみこころを十分に確信して立つことができるよう、あなたがたのために祈りに励んでいます。

13 私はあかしします。 彼はあなたがたのために、またラオデキヤとヒエラポリスにいる人々のために、非常に苦勞しています。

14 愛する医者ルカ、それにデマスが、あなたがたによろしくとっています。

15 どうか、ラオデキヤの兄弟たちに、またヌンパとその家にある教会に、よろしく言ってください。

16 この手紙があなたがたのところで読まれたなら、ラオデキヤ人の教会でも読まれるようにしてください。 あなたがたのほうも、ラオデキヤから 回って来る手紙を読んでください。

17 アルキポに、『主にあって受けた務めを、注意してよく果たすように』と行ってください。

18 パウロが自筆であいさつを送ります。 私が牢につながれていることを覚えていてください。

どうか、恵みがあなたがたとともにありますように。

共に祈りましょう。 愛する天のお父様。 今朝、私達の前にあるこの箇所、あなたの御言葉に私達は深く感謝しています。 主よ、この時間、あなたが与えたいと願っておられるものを受け取ることができるように、私達の思いと心を静めてくださり、私達の人生にお語り下さい。 主よ、集中力を保つために 私達には聖霊様が必要で

す。私達の思いは彷徨い、別の事を考え始めてしまうからです。そうしたくはありません。私達はあなたが私達のために今日、用意してくださっているものを何一つ見逃したくありませんから。ですから主よ、お語り下さい。しもべは聞いております。

イエスの御名によって求めます、アーメン。アーメン。ご着席下さい。ありがとうございます。

私達は自分に正直になってみると、次のことを認めざるを得ないと思います。私たちは今読んだばかりのような箇所を飛ばしがちです。ですよ？ あえて言ってみますが、今日、この教会におられる方の中で、これらの節を人生句にされている方は一人もいないはずですよ。 ですね？ 私達は読んだとしても... 正直になりましょう。そこから何かを得ることはほとんどないですよ。だって所詮、名前がズラズラと並んでいて、手紙の最後だし、なんていうか今日のメッセージを準備している時に思った事なのですが・・・映画が終わるとどうなるか知ってますよね。エンドロールです。ポップコーンを食べながら、エンドロールに釘付けになっている人を私はまだ一回も見たことがありません。

「ワーオ！ 見てよ、この名前のリスト。」でも、いいですか。神様は、何らかの理由で、聖霊様によって使徒パウロに靈感を授け、この手紙にこれらの人達全員の名前を記録する必要があると考えたようです。テモテ人への手紙第二3章16-17節。パウロは書いています。

### テモテ人への手紙第二3章

**16聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。**

**17それは、神の人が、すべての良い働きのために ふさわしい十分に整えられた者となるためです。**

言い換えるなら、聖書の全てのことは、理由があってそこにあるのです。時に、その理由は教えであったり、矯正であったりします。もしくは私達が好むと好まざるとも関係なく、叱責のためであったりします。今日私達の前にある本文は、私達に非常に多くの教えと矯正すらも与えることのできるものだと、言わせていただきます。私達の前にあるのが、パウロが聖霊様によって認め、感謝し、言及している人達の名前のリストであったとしてもです。-数えたら11でした- 今日、私が皆さんにお伝えしたいのは、今日の教会にある問題についてです。

「キリスト教界のスーパースター達、あるいはロックスターとも呼べる人たちに関する問題」  
多くの方がご存知のように、私は先週、ミネソタで開かれたジャン・マーケルの「Understanding the Times」カンファレンスで講師の一人として語らせていただきました。大きな教会で、その講堂には4,000人以上がいました。来てくださった方と話したり、一緒に写真を撮ったりしている時に、ある人に「JD先生はロックスターですね！」と言われたんです。私は「違いますー。そんなこと言わないで〜〜」そしたら彼女は言ったんです。「分かりました。じゃあ、イエス様のためのロックスターです！」「それもっとダメですから〜」スターはただ一人で、そのお方は明けの明星であるイエス・キリストです。岩（ロック）はただ一つだけ。その岩はキリストです。分かりますか。これが問題なんです。神様は私のような人を用います。問題は、誰一人としてそれを超える人はいないということです。私たちは自惚れて、酔いしれてしまうこともあります。みなさんが私のような人間を尊敬すると、-そんなことしないでくださいね-、それは問題を造り出してしまいます。その問題とはこれです。神様が用いている牧師やリーダーがこのように思い始めるんです。

「ワーオ。神様は本当に私を用いているよ〜」だから神様は私のために次のことをしてくださいます。この事に関しては、妻の多大な助けもあります。主は私にいつもしっかりと思い出させてくださるんです。もし主が口バの口を通して語る事ができたなら... 欽定訳にある表現は使いませんよ。主が口バの口を通して語る事ができるなら、私を通して語る事ができるのです。これこそが、このセレブ牧師メンタリティーの問題の一つなんです。もう一つ問題があります。これは私が本当に的を絞ってお話したいことです。パウロがここで書いていることのためです。それは、スポットライトを浴びずに、見えない所で忠実に仕えている人達は、

キリスト教における陰の本物のヒーロー達だということです。スポットライトを浴びている人達を有名人のように扱うなら、見えない所で忠実に仕えている人達が非常に重要だとは思わなくなるのです。私はここに立っていて、スポットライトがあり、講壇、マイクがあります。そしてご存知のように、ライトが本当に眩しいんです。私の髪は本当に薄いので、「あんまり下を見ちゃ駄目」と妻に言われます。だからできるだけ上を向くようしているんですが、ノートを見なきゃいけないので...最善を尽くします。それが皆さんに見えているものなんです。

だけど皆さんの目に入らないのは、後ろのブースで、忠実に仕え、これを可能にしている人達です。オンラインチャーチの方達はこの画面で、アメリカの最重要指名手配人のようなこの顔を見ています。しかし、あなたは、これを可能にしているのがスポットライトを浴びている者ではなく、背後で忠実に仕えている方達であることに気がついていません。これらの人達が忠実に仕えるしもべ達です。

有名人ではなく、「彼/彼女はどこの誰？」と言われる人達です。実のところ 私達は全員、同じキリストの体に属していて、お互いが必要なんです。私が、この神の教会で、教会として、見えない所で忠実に、休むことなく仕えてくださっている皆さんに、どれほど感謝しているか、到底言い現わすことはできません。牧師である私にとって、これはものすごい祝福です。皆さんに知っていただきたいことがあります。これから、ここで使徒パウロがコリントの教会宛てに書いてある事を見て行くと分かるように、—これを聞いたら、皆さん、最初少し変だなと思われるかもしれませんが、真実です。—

皆さんは、スポットライトを浴びている私のような人達と同じくらい重要なだけでなく、もっと重要な存在だと言えるかもしれません。パウロの言葉を聞いて下さい。コリント人への手紙第一12章14節からです。こう言っています。

## コリント人への手紙第一12章

**14 確かに、からだはただ一つの器官ではなく、多くの器官から成っています。**

**15 たとい、足が、『私は手ではないから、からだに属さない』と言ったところで、そんなことでからだに属さなくなるわけでは ありません。**

**16 たとい、耳が、『私は目ではないから、からだに属さない』と言ったところで、そんなことでからだに属さなくなるわけでは ありません。**

**17 もし、からだ全体が目であったら、どこで聞くのでしょうか。もし、からだ全体が聞くところであったら、どこでかぐのでしょうか。**

**18 しかしこのとおり、神はみこころに従って、からだの中にそれぞれの器官を 備えてくださったのです。**

**19 もし、全部がただ一つの器官であったら、からだはいったいどこにあるのでしょうか。**

**20 しかしこういうわけで、器官は多くありますが、からだは一つなのです。**

**21 そこで、目が手に向かって、『私はあなたを 必要としない』と言うことはできないし、**

それだと面白いことになりますよね？「ちょっと、あなたは必要ないよ。バーン！」なくなっちゃいました。いいえ、私には足が必要です！手、耳、鼻、体の全ての器官が必要なんです！！

**21そこで、目が手に向かって、『私はあなたを必要としない』と言うことはできないし、頭が足に向かって、『私はあなたを必要としない』と言うこともできません。**

**22 せどころか、からだの中で 比較的弱いと見られる器官が いいですか。かえってなくてはならないものなのです。**

**23 また、私たちは、からだの中で 比較的尊くないとみなす器官を、ことさらに尊びます。**

こうして、私たちの見ばえのしない器官は、ことさらに良いかっこうになります、

**24 かっこうの良い器官にはその必要がありません。しかし神は、劣ったところをことさらに尊んで、からだをこのように調和させてくださったのです。**

**25それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いにいたわり合うためです。**

**26もし一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、もし一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。**

この最後の箇所を押さえておいてほしいと思います。というのも、後でまた戻ってくるからです。

パウロがコロサイの教会に示していることというのは、ここで彼がコリントの教会宛てに書いていることと全く同じです。彼は「全ての人が重要だ」と言っているのです。繰り返しますが、全ての注目を浴びない人達が、同じくらい重要であるだけでなく、場合によっては、より重要だと言うことができます。私はこの事のゆえに、パウロは聖霊様によってこれらの人達を認め、感謝したのだと思っています。その後続くのは教訓です。パウロが名前をあげたこれら11人の人達全員から、私達は学ぶことができると私は思っています。最後まで忠実に仕えることに関して。とりわけ、それが見えない所である時に。

テキコから始めましょう。彼は、「無名」を「無用」と同義語であると思うのは、大きな誤りであると、私達に教えています。この人がどれほど重要だったか知ってますか？彼はパウロの助手でした。パウロの手紙を運んだんです。「ただの使者だったんでしょ。」と言うかもしれません。そうでしょうか？彼が運んだ手紙というのは、私達が今その全体を読み終えたばかりの「コロサイ人への手紙」である事にお気づきですか？ほぼ2,000年間、聖書正典の中に保たれてきているんですよ。彼が運んだその手紙が。

このオネシモはどうでしょうか？興味深い人です。彼は私達に、神様はどんな人のことも変えることができる事を教えています。私たちが携挙の前に「ピレモンへの手紙」まで進むことができたなら... できるかもしれませんよ。私達はこの男性についてさらに学ぶことになります。彼はピレモンの奴隷でした。ピレモンから盗み、逃亡し、そして救われ、主人であるピレモンの所に戻り、行ないを正すのです。皆さん理解する必要があります。奴隷がそんなことしたらそれで.....おしまいです。主人の手で死刑に処せられてもいいんです。

続いて、アリストアルコ。

彼は私達に、非常に大変な時にずっと共に苦しんでくれる人達のかげがえのない忠誠心について教えています。彼はパウロにとってそのような存在だったのです。パウロはここで彼の名前を挙げて、彼を認め、感謝し、彼のゆえに主を賛美しています。どんなことがあるうとも忠実忠誠である人達には、言及に値するべきところがあるのです。

続いてマルコ。これは実に興味深いです。というのも、パウロとバルナバが激しく対立した原因であるあのマルコだからです。彼が宣教旅行中に彼らを見捨てた時、実際、このパウロとバルナバの間の激しい対立は、使徒行伝に記録されていますが、その対立はあまりにも激しくて、二人を分裂させたんです。マルコを巡って。バルナバは「おいパウロ。彼に機会を与えてやれ。」と言っている。だけどパウロは「とんでもない！とんでもない。彼のことはもう知らないね。」そのマルコですよ！ところがこの手紙の終わりで、使徒パウロがマルコを認めている。

神様が御霊によって靈感を受け、「マルコの福音書」として知られているあの福音書を書かせたあのマルコですよ。ではマルコは何を教えているのか？マルコは、決して人々のことを諦めてはならない、と教えているのです。コロサイの教会に宛てられた手紙の結びに書かれているこのマルコは、使徒行伝に書かれているマルコではありません。神様は私達全員を作り変えられるじゃないですか？

私が学んでることの一つは、－私はそれを身をもって学んでいると言わなければいけませんし、そのことを証明する傷跡があります。沢山の傷跡がね。－いつでもやりすぎるくらい恵み深くするべきだということです。いつでもやりすぎなくらいに寛大であるべきなのです。決して人々に見切りをつけないことです。「そうですね。でもあの人達がしたこと知ってますか？」知ってますよ。

知りたくない時もありますけど。彼らは本当にひどい間違いをしてしまった。

「あの人達は忠実でなくて、私を見捨てたんです！状況が大変になったら、去って行ったんですよ！

私は彼らを頼りにしたり、信頼することはできません！頼れないんです！」

「違いますよ。絶対にその人達に見切りをつけないことです。」マルコはそう私達に教えているんです。バルナバ。バルナバという名は「憐みの子」という意味です。聖書全体で見られることですが、名前がその人の性質になっているんです。実際、子どもが産まれるまで待って、どのような性質を持っているかを見るんです。子どもの性質にそって名前をつけていたからです。もし私が2人の息子、イライアスとリーバイに そうしていたら、イライアスとリーバイとは名付けませんでしたよ。2人が幼かった時、サーチ（探す）と デストロイ（壊す）と名付けていたはずで。とにかく、名前がその性質だったんです。これが彼の性質だったんです！彼は励ます人でした。実のところ、誰もタルソスのサウロを信じなかった時に、彼を歓迎したのはバルナバだったんです。

「あり得ない！」 「いや、彼は信者なんだ！」 「そんなわけないだろ。これは畏だ！彼は、イエス・キリストを信じ従う者達を殺しているじゃないか。これは畏だ！」

使徒パウロとなるタルソスのサウロを歓迎したのは、バルナバでした。

次の人は興味深いですよ。あっと、すいません。バルナバは私達に励ましの力を教えています。決して励ましの力を過小評価してはならない。

さあ次の人に行きます。この人はここ以外では聖書のどこにも名前が出て来ないんです。でもここにはあります。彼の名前はユストですが、実はそれは別名で、当の名前はイエスでした。すごくいいですか？みなさんが理解しておく必要があるのは、当時、「イエス」という名はありふれた名前だったということです。だからパウロは「ユストとも呼ばれるイエス」と言っています。「で、彼がどうしたの？」それだけです。名前がここに挙げられているだけです。では一体そのことは何を教えているのでしょうか？それが教えているのは、あなたの名前を知っている人が誰もいなくても、神様は知っておられるということです。

神様はあなたの名前と 人となりを知っておられるだけではなく、あなたが主と主の栄光のためにしている事をすべてご存知なのです。

次なる人はエパfras。皆さんが祈り会にいてほしいと思う人です。自分のために祈ってほしいと思う人です。パウロは「彼は熱心に働いている」と言っています。原文には「生みの苦しみをしている女性」という意味があります。「陣痛」です。彼はあなたのために祈って、陣痛が臨んでいる女性のように激しい生みの苦しみを味わっているんです。見えない所で。この人のことは聞いたことがありません！彼はカンファレンスに招かれて語ることはありません。「どちらのエパfrasさん？」

見えない所で他の人達のために熱心に祈ったエパfrasです。祈りの戦士です。彼は、祈りの最重要性を私達に教えています。とりなしの祈りです。

次はルカ。「ルカの福音書」のあのルカです。4福音書の著者として 御霊によって靈感を授けられた唯一の異邦人ルカ。彼は医者でした。当時はおそらく今日以上に、医者達は重んじられていました。

医者達をスーパースターにするということでは、今もそうですよね。実際こんな冗談を聞きました。

冗談を言うのは得意ではないのですが、頑張ってみますので付き合ってください。神様と医者の違いは何でしょうか？答えなくていいですからね。私が言いますから少しお待ち下さい。神様と医者の違いは何か？神様はご自身が医者だとは思っていない。冗談を言うのはあまり得意ではないって言いましたよ。でも要点は掴めたと思います。医者達というのは、自分を神だと思ってしまう時があるんです。

ルカは医者でした。凄く重んじられていた。ではルカは何を教えているのでしょうか？ここで使徒パウロによってルカの名前が挙げられていることは、神様が私たちに才能や技術を与えて下さるのは、それらを神の栄光のために用いるためであることを私達に教えているのです。ルカはパウロの主治医でした。実際ーもっとお話しする時間があったらいいのですがー使徒の働き27章で船が難破した時に、パウロといたのはルカでした。なぜならルカがそのことを記録し、それについて記しているからです。ルカは、使徒パウロと共に数多くの苦

しみを通りました。常に医者をそばで待機させている必要がある人がいたとしたら、それは使徒パウロですよ。彼は満身創痍でした。彼には医者が必要でした。だから神様は彼のためにルカを備えられ、神の栄光のために彼の才能、賜物、技術を用いられたのです。

デマス。この人は興味深い。パウロは後に彼について書いていますが、良い内容ではありません。

テモテへの手紙第2章9-10節で彼は「デマスはこの世、この世のものを愛して私を捨ててしまった」と書いています。それに先立って、ここでデマスの名前を出していますが、正当な理由があつてのことだと思いません。なぜなら彼は私達に、立派にやり遂げることを教えているからです。私たちは競争を走っているんですよ？ 私達はその競争を走り抜く必要があり、立派に走り抜く必要があるのです。

次の人に行きたいと思います。ヌンパ。ここに名前が載っている唯一の女性です。

私には、これはキリストの体における女性の役割の重要性と、もしかするともっと重要なことに、ホームフェローシップ（家庭集会）の重要性を教えている気がします。

最後の人アルキポ。彼は私達に、忍耐と堅く立ち続ける事、そしてとりわけ物事が本当に難しくなる時に、最後まで耐え忍ぶ事の重要性を教えています。

以上です。11人の名前。最初読んだ時は「はい。それで？ それでどうしたんですか？」これですよ。彼らは実在した人です。ところで私達は彼らと天国で会うんですよ。デマスがいるといいんですが。いないかもしれませんね。その時がくれば分かるでしょう。彼らは実在した人達だった。神様に用いられ、使徒パウロを本当に祝福したので、天に蓄えられた莫大な富と宝を享受する人達です。彼らが無名でありながら、見えない所で行なった働きのために。サムエル記第一30章にある、とても興味深い話を最後にして終わりたいと思います。

私にとって、これは力強いまとめとなるんです。少し背景を語らせてください。

ダビデは、誘拐された妻達や子ども達全員を無傷で取り戻して勝利の帰還を果たしました。彼らはアマレク人に誘拐されていたんです。彼らは、ダビデとその部下600人が戦いに出ている時に、ツィケラグに来て、町全体を焼き払いました。そしてダビデが600人の戦士達と、一彼らはダビデの忠実な部下達です。ツィケラグに戻ってみると、全てが焦土と化し、妻達も家族も全員なくなっていました。アマレク人に連れ去られてしまっていたのです。これは実に強烈な話しです。なぜなら彼らは不屈の戦士達ですよ。ダビデは彼らの長でした。彼らはもうただ泣き崩れ、激しく泣いたんです。それだけでなく、起こったことのゆえに、彼らはダビデに敵対し、殺そうとしました。ダビデは主にあつて奮い立ったと、書かれています。全てを失った600人の部下達。そして今、彼らはアマレクと戦って、家族を取り戻すために出て行こうとします。ただ、問題が一つありました。600人のうち200人は戦いに疲れてしまったのです。実際彼らはダビデにこう言いました。

「聞いて下さい。私達は疲れ過ぎていて、もう戦いに行く力が残っていません。ここにとどまって、荷物の見張りをしています。」ダビデはそれを許しました。なので600人の内200人がツィケラグにとどまって、荷物を見張ることにし、他の400人がダビデと共に戦いに出て行き、アマレク人達が奪った全てを無傷で取り戻しました。これ自体が教訓です。神様は、敵が私達から奪った財産を取り戻してくださる。物質的な事を言っているではありません。敵が私達から喜びを奪う時、私達の希望を奪う時に。なぜなら、敵は盗み、殺し、滅ぼすためにやって来るから。主は、イナゴが食い尽くしたものの、アマレク人が奪ったものを取り返してくださるのです。まあこれは今日のトピックではありませんので。400人がダビデと共に出て行き、勝利して帰って来たのですが、彼らは高ぶってしまった。

そしてダビデに言ったんです。「おい、俺達には分捕り物が沢山あるぞ。」確かにそうだったんです。

「あの残って、戦いに行かなかった200人の奴らは、分け前を一切受けるべきじゃない。俺達と一緒に戦わなかったんだから！ 彼らは陰にいたんだから！ 俺達と一緒に前線で戦わなかったじゃないか。」

ダビデの返事を聞いてください。

## サムエル記第一 30章

**24『だれが、このことについて、あなたがたの言うことを聞くだろうか。 戦いに下って行った者への分け前も、荷物のそばにとどまっていた者への分け前も同じだ。 共に同じく分け合わなければならない。』**

私が牧会させていただいている この素晴らしい教会にいる皆さん全員。 皆さんは、神様がこの教会とこのミニストーリーでなされている事のゆえに、先に待ち受けている報いと宝を共に受ける事を自覚されていますか？ 山分けするんですよ。 これは微妙なトピックなんです。 でも、取り扱わなければなりません。 人々はこう言います。

「ああ、ビリー・グラハムみたいな人達は大きな屋敷をもらえるよ。」って。 皆さん、驚くことになるかもしれませんが。 驚くかもしれない。 天国では沢山の驚きがあると思いますが。

「あれは誰ですか？」 「えー、あなた、あれが誰か知らないんですか？」

だって私達は、分かりますよね、 ノアに会えると思っていますから。 パウ口はどうでしょうか？

ほー！ ハリウッドツアーのようなツアーが（天国で） あると思いますよ。 分かりますよね。 スター達の家の近くを車で通るツアーみたいな。 それが流行りなんでしょう？ 私はやったことがないので分かりませんが。

でもこんなようなツアーをするんです。 「あちら左手にあるのが使徒パウ口の屋敷です。」 「うわー！」 私達、天国に行ったら驚くことになると思いますよ。

「共に同じく分け合わなければならない。」

## サムエル記第一 30章

**25 その日以来、ダビデはこれをイスラエルのおきてとし、定めとした。 今日もそうである。**

見えない所にいる人達のことを神様に感謝します。 仕えておられる皆さん。 皆さんはスポットライトを浴びることはなく、カンファレンスの講師として招かれないし、マイクもないし、講壇に立つこともなく、第一線にはいない。 ワーオ！ ちょっと・・・ こう言って私に対する考えが 変わらないといいのですが、時々、私は「注目を浴びることがなければいいのに」、「スポットライトを浴びずに陰で、無名で仕えることができたらいいな」って思うんです。「神様、一体何を考えていたんですか？」って思う時があります。 なんていいですか、第一線に付き物の プレッシャーやストレスとは無縁の生活を想像してしまうんです。 私達は共に平等に分け合います。 皆さんに待ち受けている報いは大きいのです。

祈りましょう。

お父様、感謝します

主よ、私達の前にある、この取るに足りないように見えて非常に豊かな箇所にもう一度感謝します。

そこには、本当に忠実に仕えた これらの人達の名前を挙げています。

主よ、見えない所で忠実に、黙々と、人知れずに仕えておられる方達を感謝します。

主よ、彼らに感謝します。 この方達を祝福してください。

そして主よ、あなたが彼らを励まし、力づけてください。

イエスの御名によって、アーメン。

---

メッセージby JD Farag

牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記hukuinn7